

[総合的な学習の時間]

小学校高学年の総合的な学習の時間における児童の学習意欲の変容を促す指導の在り方に関する実践的研究

－ 単元全体を通じた「価値ある体験活動」の工夫－

酒井 佑輔*

1 主題設定の理由

平成29年告示の小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編¹⁾では、第5節「外部との連携の構築」において、「地域の教育的資源などを積極的に活用するとともに、育成を目指す資質・能力について共有し、必要な協力を求める」ことが述べられている。実践校の校区にはけやき通りがあり、冬にはNIIGATA光のページェント（以下、光のページェント）点灯式が毎年開催される。そこでは、総合的な学習の時間（以下、総合学習）で6年生の児童が地域活性化の取組を行っている。光のページェントにおける私の過去の実践では、育成を目指す具体的な資質・能力を考え、探究のプロセスに沿って単元を構想したが、学習が進むにつれて児童の学習意欲が低下していくことがあった。

学習意欲について、松澤（2004）は次のように述べている。「学習意欲の質的転換は、学習過程と密接に関係し合うことが考えられるのである。価値ある体験を通して抱く問題意識は、『興味・好奇心による学習意欲』であり、構想力を働かせて問題解決までの構想を含み込む中間項が成立する段階では、『有能感・効力感による学習意欲』が生じ、共同問題を追究しようという『価値志向性による学習意欲』へと質的に深まっていくことになるのであろう。さらに、新たな疑問をもって共同問題の深化・発展が企図されるとき『自己実現のための学習意欲』へと転換していくと考えられよう。』²⁾「学習過程の深まりに応じて学習意欲の質的転換が図られるような学びこそが『価値を志向する学び』となるのである。』²⁾また、松澤は、「価値を志向する学び」の成立基盤として「価値ある体験」を挙げている。「価値ある体験」について「子どもにとっての体験が、自分自身のこととして行われているかどうか、子どもにとって必然性があるかどうか、さらには、体験が子ども自らの生き方を切り開くようなものになっているかどうか」が重要になってくるのである。』²⁾と述べている。私の過去の実践では、児童の興味や関心を惹くことだけに地域の「人・もの・こと」を活用していたため『興味・好奇心による学習意欲』のみに着目した手立てになっていた。そのため、学習過程が進んでも児童の学習意欲の質的転換が十分に図られず、分断され、探究を伴った活動にならなかった。

松澤は、学習意欲の質的転換と価値を志向する学びの成立を図る授業構想の見通しを述べている。しかし、学習意欲の質的転換を図る教科・領域等の具体例や手立て、単元の進行に応じた「価値ある体験」の在り方については、明確ではない。

総合学習の実践の質を上げるための手立てとして、古川（2012）は、「児童は継続的に特定地域に入り、そこで暮らす人々と話し、考え、ふれあうという活動を行った。そこで、児童は地域のよさや人々のよさ、思いに気付き、次の活動へとつなげることができるようになった。』³⁾と述べている。古川は、総合学習の探究的な学習において、地域の人々との関わりと児童の学習意欲との関係を論じている。しかし、地域の人々との関わりが児童の学習意欲にどのような変容を促す手立てとなったか明確ではない。

これらの先行研究を踏まえて、本研究においては、総合学習における学習意欲の質的転換を図る具体的な手立てとして「地域の人々との関わり」に着目し、「総合学習の単元全体の学習過程において、児童の学習意欲が連続するように、意図的、計画的、発展的に設定した地域の人々との関わり」を「価値ある体験活動」とする。この「価値ある体験活動」を通して、児童の学習意欲の変容を促すことができるか、その有効性を授業実践をもとに明らかにする。

2 研究の目的

本研究では、総合学習における「価値ある体験活動」としての「出会う・調べる・提案する・作り上げる」活動が、児童の学習意欲の変容を促し、進んで学びを深めることに有効な手立てとなることを明らかにする。

*新潟市立赤塚小学校

3 研究の内容

(1) 学習過程における学習意欲と児童が進んで学びを深める姿

松澤が述べている4つの学習意欲を総合学習の探究のプロセスに当てはめてみる。「課題の設定」の段階では「興味・好奇心による学習意欲」,「情報の収集」の段階では「有能感・効力感による学習意欲」,「整理・分析」の段階では「価値志向性による学習意欲」,「まとめ・表現」の段階では「自己実現のための学習意欲」へと質的転換を図ることが、児童が進んで学びを深めるために必要になると考える。

では、「児童が進んで学びを深める」とはどのような姿だろうか。『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校編)総合)においては、「主体的に学習の取り組む態度」の評価について「①知識及び技能を獲得したり,思考力,判断力,表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面 ②①の粘り強い取組を行う中で,自らの学習を調整しようとする側面」という二つの側面を評価することが求められる。⁴⁾と、「学習評価の在り方ハンドブック」では、「自らの学びを調整しようとする側面」について、「自らの学習状況を把握し,学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のことです。」⁵⁾と示されている。

そこで,本研究では、「児童が自ら課題意識をもって粘り強く取り組み,他者との協働を通して解決の方法を検討し社会に働きかけようとする姿」を「児童が進んで学びを深める姿」とする。表1は学習過程における学習意欲を具体的な児童の姿で表したものである。学習過程全体を通して,自らの課題解決に向けて粘り強く取り組もうとする側面,自らの学習を調整しようとする側面を評価する。

表1 学習過程における学習意欲と児童が進んで学びを深める姿

学習過程	学習意欲	児童が進んで学びを深める具体的な姿
課題の設定	興味・好奇心による学習意欲	けやき通りで活躍する「人」と出会い,自分なりの課題意識をもっている。
情報の収集	有能感・効力感による学習意欲	自分なりの課題について,進んで情報を集めたり,解決の見通しを立てたりしている。
整理・分析	価値志向性による学習意欲	収集した情報を取捨選択・比較・分類するなどして,解決すべき課題を明確化にしている。
まとめ・表現	自己実現のための学習意欲	よりよい課題解決に向けて,主体的・協働的に取り組み,進んで社会に働きかけている。

(2) 「価値ある体験活動」としての「出会う・調べる・提案する・作り上げる」活動

外部人材の活用の効果の先行研究として,鈴木(2017)は「児童・生徒が,専門性の高い人材に触れることは,教育活動を確実に豊かにする。」⁶⁾と述べている。田坂・和多・高見沢(2003)は,外部人材との協働による効果として「地域への関心の高揚」「授業の質の向上」「学習領域の拡大」⁷⁾を挙げている。これらから,外部人材の活用には「地域への関心の高揚」「高い専門性による授業の質の向上や学習領域の拡大」などの確かな効果があると言える。

学習過程の各段階で地域の人々に関わる活動を適切に設定することは,児童の学習意欲を引き出したり,質的転換の契機としたりするための有効な手立てとなる。本研究の「課題の設定」場面では,児童は地域で活躍する店舗・施設の人や光のページェント実行委員長と出会い,仕事についてインタビューしたり光のページェントに関する問題提起を聞いたりする。このことで「興味・好奇心による学習意欲」を引き出す。「情報の収集」場面では,児童は「興味・好奇心による学習意欲」をもとに,地域で活躍する店舗・施設の人から仕事への情熱やけやき通りに対する想いをインタビューする。そして,調べた情報を生かして地域活性化の方策を考え,解決の見通しを立てる。このことで「有能感・効力感による学習意欲」への転換を図る。「整理・分析」場面では,児童は光のページェント実行委員会に参加し,点灯式での活動を提案したりアドバイスをいただいたりする。そして,アドバイスをもとに友達と計画を練り直し,解決すべき課題を明確化する。このことで,「価値志向性による学習意欲」への転換を図る。「まとめ・表現」場面では,地域で活躍する人の高い専門性を生かし,知識や技能を教えていただくことで,児童は課題解決に向けてよりよいものを作り上げていく。このことで地域活性化に向けて主体的・協働的に働きかけるための「自己実現のための学習意欲」への転換を図る。

地域の人々との関わりに期待する効果を明確にし,学習過程に応じて「出会う・調べる・提案する・作り上げる」と活動を発展させることで,より高次のものへ学習意欲の質的転換を図る。この一連の学習意欲の質的転換を「学習意欲の変容」とする。「価値ある体験活動」としての「出会う・調べる・提案する・作り上げる」活動により,児童の学習意欲の変容を促し,児童が進んで学びを深める姿を具現する。

表2は学習過程における地域の人々との関わりに期待する効果と学習意欲の質的転換をまとめたものである。また,

表3は「価値ある体験活動」としての「出会う・調べる・提案する・作り上げる」活動を位置付けた年間指導計画である。

表2 学習過程における地域の人々との関わりにおける期待する効果と学習意欲の質的転換

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
地域の人々との関わり	出会う	調べる	提案する	作り上げる
期待する効果	地域への関心の高揚・問題提起	高い専門性による知識や技術の発揮	児童の社会性の向上・課題の明確化	高い専門性による知識や技術の発揮
学習意欲	興味・好奇心による学習意欲	有能感・効力感による学習意欲	価値志向性による学習意欲	自己実現のための学習意欲

表3 「価値ある体験活動」としての「出会う・調べる・提案する・作り上げる」活動を位置付けた年間指導計画

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
探究課題	光のページェント点灯式での地域貢献											
活動名	大好き新潟体験 広めよう！私たちのけやき通り！～光のページェントに向けて～											
ねらい	けやき通りや光のページェント点灯式について、店舗や施設で働く人、光のページェント実行委員の方々の魅力(仕事へのこだわりや工夫、人の温かさ)や地域の発展に尽力する想いを理解し、地域の一員として地域活性化のためにできることを考え進んで働きかける活動をとおして、自分の将来について考えることができる。											
計画	学習活動	育成を目指す資質・能力	学習活動	育成を目指す資質・能力	学習活動	育成を目指す資質・能力	学習活動	育成を目指す資質・能力	学習活動	育成を目指す資質・能力	学習活動	育成を目指す資質・能力
	見つけよう！けやき通りの良いところ！		考えよう！ 私たちができること！		広めよう！ 私たちのけやき通り！							
(1)	けやき通りを歩き、良さや課題を探る。	【 情報の収集 】 けやき通りの良さや課題について、けやき通りを複数回歩き、情報収集する。	(7) けやき通りにある店舗や専門学校を見学したり、インタビューをしたりして、情報収集する。(出会う①)	【 知識・技能 】 人の魅力や地域の発展に尽力する想いを理解する。	(14) 「けやきの想いの合唱をピアノとEBSと一緒に練習する。(作り上げる②)」	【 主体性 】 よりよい合唱になるように、歌詞に込められた想いを考えながら歌う。						
(2)	見つけたけやき通りの良さ(けやき並木景色・素敵な店舗など)から、お気に入りの風景を見つけ、絵に表す。	【 主体性 】 けやき通りの良さを、遠近法を用いて進んで絵に表そうとする。	(8) 収集した情報を整理し、共通点を考える。	【 整理・分析 】 人の魅力や地域の発展に尽力する想いの共通点に気付く。	(15) 点灯式1週間前 けやき通りガイドブックと版画カレンダーを店舗に届け、光のページェント点灯式に招待する。	【 社会参画 】 「地域貢献」「感謝」の気持ちを持ち、人や地域の魅力発信に向けて進んで取り組む。						
(3)	けやき通りの良さや課題について情報を整理する。	【 整理・分析 】 整理した情報から、けやき通りを大切に思うに至らない理由を、国語『町の幸福論』を読んで考える。	(9) 光のページェント実行委員長から、光のページェントの歴史や地域への想いを伺う。(出会う②)	【 知識・技能 】 人の魅力や地域の発展に尽力する想いを理解する。	(16) 点灯式当日 光のページェント点灯式でのステージ発表・ブースでの取組を考え、実践する。	【 社会参画 】 「地域貢献」「感謝」の気持ちを持ち、人や地域の魅力発信に向けて進んで取り組む。						
(4)	地域教育コーディネーターへのインタビューから、学習課題を設定する。	【 課題の設定 】 「人と人のつながり」が足りないことに気付き、学習課題を設定する。	(10) けやき通りガイドブックに掲載する内容や写真を考え、再度見学・インタビューを行う。(調べる)	【 知識・技能 】 人の魅力や地域の発展に尽力する想いをより深く理解する。	(17) 光のページェント点灯式までの活動を振り返る。	【 自己理解 】 自分の良さや成長を振り返る。 【 将来展望 】 経験や学びを自分の将来に生かそうとする。						
(5)	けやき通りにある店舗の中から、興味のある店舗を決める。	【 将来展望 】 自分の興味のある仕事に近いものを選ぶ。	(11) 地域を盛り上げるためにできることを考え、実行委員会で想いやアイデアを伝える。(提案する)	【 社会参画 】 今まで学習したことを基に、自分たちができていることを考え、進んで働きかける。	(18) 実行委員会の方々へ「ありがとうの会」を開く。	【 まとめ・表現 】 感謝の気持ちを伝える。 【 社会参画 】 売上金の一部を寄付する。						
(6)	けやき通りにある店舗にインタビューに伺うために、お願いの手紙を書き、質問を考える。	【 主体性 】 店舗の良さや店長のけやき通りへの想いをインタビューするために、進んで取り組む。	(12) 収集した情報を整理し、けやき通りガイドブックにまとめる。(作り上げる①)	【 まとめ・表現 】 人の魅力や地域の発展に尽力する想いを中心にまとめ、表現する。	(19) 「5年生に伝える会」を開き、点灯式の歴史や取組を分かりやすく伝える。	【 整理・分析 】 引き継いだ方がよい内容を選ぶ。						
			(13) けやき通りの「四季」「お気に入りの風景」「人」を版画に表し、カレンダーを作る。(作り上げる②)	【 協同 】 6人1チームで協力して、カレンダーを完成させる。	(20) 1年間の学習を振り返る。	【 自己理解 】 C② 自分の良さや成長を振り返る。						

(3) 地域の人々との関わりにおける期待する効果を高める手立て — 「少人数グループ」・「相手の仕事場」での活動—
学習意欲を引き出したり、質的転換を図ったりするためには、地域で活躍する人の想いや魅力を深く感じる事が大切である。そこで、「3～6名の少人数グループ」・「相手の仕事場」で活動するように工夫する。これにより、児童が仕事の様子を間近で学び、地域で活躍する人の想いや魅力にふれることで、進んで問いを見出したり、他者との協働を通して解決の方法を検討し社会に働きかけたりすることに期待する。

4 研究計画

- (1) 検証実践期間 平成31年4月～令和2年2月(全70時間)
- (2) 検証対象学年 新潟市内公立小学校 6年生2学級 48名(男子21名 女子27名)
- (3) 実践上の手続き

- ① 検証対象学年児童のうち、地域のことを調べる学習への意欲が低調である自学級の児童2名を抽出した。
- ② 授業はほぼ同一時間帯に行い、同一授業者によって2学級での授業実践を行った。

(4) 検証の方法

「価値ある体験活動」を通じた学習意欲の変容と児童が進んで学びを深める姿を次の2つの方法で分析する。

- ① 抽出児童A・Bのポートフォリオの記録から明らかにする。(質的分析)
- ② 学年児童への質問紙調査の数値から明らかにする。(量的分析)

5 研究の検証

(1) 「価値ある体験活動」と抽出児童の学習意欲の変容

① 【出会う】店舗・施設での見学・インタビュー活動（1回目）

けやき通りで活躍する大人とつながりをもつために、けやき通りにある11の店舗・施設を見学・インタビューする活動を行った。訪問する店舗・施設は、児童から希望を取り、全員が第3希望内になるようにグループ編成した。表4のとおり、どちらの児童も地域で活躍する人と「少人数グループ」・「相手の仕事場」で関わることで、仕事への情熱や仕事の合間に丁寧に対応してくださる優しさに関心していることが分かる。また、A児の「一生いたいと思いました。」やB児の「…また行きたいなと思った。」から、今回の活動で出会った人や店舗・施設に魅力を感じ、興味・好奇心が高まっていること、粘り強い取組につながる想いをもち始めたことが推察できる。

表4 店舗・施設での見学・インタビュー活動後の抽出児童の振り返りの記述

A児	調理専門学校を訪問	フランスパンの生地をさわらせてもらったり、授業をしているところを見せてもらって、知らないことの連続ですごいの一言でした。いそがしいところ時間を取ってもらって、やさしくていねいに接してもらって、感謝しています。一生いたいと思いました。(中略)あと、入口と話した部屋に「ようこそ」と書いてあって感動しました。
B児	洋菓子店を訪問	ケーキを作っているところを実際に見れて、クリームがていねいにぬってあったり、トッピングをキレイに盛りつけていたりしてすごかった。商品もずらりとならんでいてワクワクした。(中略)常に新しいものを作れたり、楽しんだりするところがやがやいと言ってすごかったし、また行きたいなと思った。

② 【出会う】光のページェント実行委員長との出会い

児童は、光のページェント実行委員長から光のページェントにかける想いや苦勞について話を聞いた後、点灯式での活動について話し合った。その結果、けやき通りを盛り上げたいという想いをもち地域で活躍する人を紹介するガイドブックを配付したり、けやき通りのお気に入りの場所を版画に表したカレンダーを販売したりすることで、地域活性化に貢献できると考えた。表5のとおり、A児はガイドブックの作成について否定的な考えを示しつつも、「…それなりのものを作らないとだめだと思う。」と記述していることから、地域活性化の方策を自分なりに考え、自らの学習を調整していること分かる。B児は、光のページェントの目的と課題にふれており、「…少しでもこうけんしたい。」から、自分事の課題として捉えていることが分かる。2つの「出会う」活動を通して、抽出児童の中に「興味・好奇心による学習意欲」が継続していることが推察できる。

表5 光のページェント実行委員長との出会い後の抽出児童の振り返りの記述

A児	光のページェントは冬になると光っているくらいにしか思っていなかったけど、いろいろな思いがこめられているということが分かった。実行委員の人たちはすごく真げんでびっくりした。(中略)ガイドブックを作ることで点灯式に人が集まるとは思わない。もし人を集めるとしたらそれなりのものを作らないだめだと思う(カレンダーも)。
B児	光のページェントには、①けやき通りを明るくするため、②社会や地域の役に立つため、③子どもたちの明るい未来のためという願いがこめられていることが分かった。(中略)ガイドブックでけやき通りの店舗をしょう介してけやき通りにたくさんの方が来てほしい。カレンダーは売り物になるくらいのもを作って、少しでもこうけんしたい。(後略)

③ 【調べる】店舗・施設での見学・インタビュー活動（2回目）

児童は、「人の想い」に焦点を当てたガイドブックを作成するという目的意識をもち、2回目の見学・インタビュー活動を行った。訪問先や訪問する児童は1回目と同様である。表6のとおり、A児の「…ほくもガイドブックで〇〇さんにおんがえしたいです。」に、2回の活動を快く引き受けてくださった施設の方への感謝の気持ちからガイドブックを作成することで地域活性化に貢献したいという意欲的な気持ちが表れている。「おんがえし」は、A児の想いを伴う粘り強い取組となっていることを示す。また、B児の「…売っているガイドブックにはのっていない内容だから、お客さんに手に取ってもらえると思う。」から、課題解決の方法を自分なりに思案していることが分かる。目的意識をもった「調べる」活動によって、どちらの児童も「『人の想い』に焦点を当てたガイドブックを作成することで地域活性化に貢献できそうだ。」という解決の見通しをもつことができた。このことから、児童の「興味・好奇心による学習意欲」が「有効感・効力感による学習意欲」へ転換したと推察できる。

表6 店舗・施設での見学・インタビュー活動後の抽出児童の振り返りの記述

A児	(前略)〇〇さんはすぐに調理が始められるように器具などを全て準備したり、調理の前に2回も手を洗い、アルコール消毒もしていて、えいせい面に気をつけているなと思いました。(中略)生徒さんのアレルギーを聞いてその人でもできる授業を考えていて、生徒さん思いだなと思いました。ガイドブックをおうえんしてくれていたの、ほくもガイドブックで〇〇さんにおんがえしたいです。
B児	(前略)道具を外国から取りよせていてすごかったし、自分の手に合った道具を作るものに合わせて変えていてこだわりをもって仕事をしていてすごかった。そういうところをガイドブックに書けば、売っているガイドブックにはのっていない内容だから、お客さんに手に取ってもらえると思う。

④ 【提案する】光のページェント実行委員会での活動提案

児童は、光のページェント実行委員会に参加し、点灯式での活動を少人数グループで提案した。表7のとおり、「提案する」活動がB児のように「完ぺき」と思い込んでいた活動案を見直すきっかけとなり、新たな課題が明確になったことが分かる。A児の「…これから決めていかななくてはいけないことがたくさんあります。」やB児の「…みんなが買いたいと思うようなものにしたい。」には、自らの学習を調整している姿が表れている。「提案する」活動が「有効感・効力感による学習意欲」を「価値志向性による学習意欲」へと転換する契機になったと推察できる。

表7 光のページェント実行委員会での活動提案後の抽出児童の振り返りの記述

A児	(前略) 大人が本気で小学生に向かってきて、大変でした。けど、どの意見もなっとくできるもの多くて、真剣にけやき通りや光のページェントをもち上げたいと思っています。 (中略) 渡し方やおつりのことなど、これから決めていかなければいけないことがたくさんあります。このままではだめだから気持ちをきりかえないと思いました。ガイドブックはおんがえしにもなるのでがんばりたいです。
B児	今日、実行委員会に参加して、私たちが〇〇さんたちに意見を言うと必ず「もっとこうしたほうがいいんじゃない」とか「それはどういう目的でやるの？」などと質問してきて、自分たちで完ぺきと思っていたことが、まだまだ考えられていないことが多いと分かった。(中略) 納得してくれた部分もあったから、それはすごく良かったと思った。これから、もっとがんばって前よりも光のページェントが広まってほしい。そのためにガイドブックやカレンダーをみんなが買いたいと思うようなものにしたい。

⑤ 【作り上げる】専門性を生かした技術指導を受けること

光のページェント点灯式での活動（ガイドブックの配付・版画カレンダーの販売・「けやきの想い」の合唱）をよりよいものにするために、専門的な知識・技能をもつ地域の方から指導をしていただく機会を設定した。表8は、「けやきの想い」を作曲したE氏から合唱指導を受けた後の振り返りの記述である。どちらの児童も技能の高まりを実感するとともに、課題解決に向けて主体的・協働的に取り組み、進んで社会に働きかけようとする意欲が表れている。このことから、「価値志向性の学習意欲」へと転換している児童に、専門的な知識・技能をもつ地域の方と「作り上げる」場を設けることで「自己実現のための学習意欲」へと高まりつつあると推察できる。

表8 専門性を生かした技術指導を受けた後の抽出児童の振り返りの記述

A児	今日の1時間だけで、ふだんの授業の5時間分くらい進歩したと思います。(中略) 本番までに絶対、前の6年生を上回る程の歌にして、Eさんをおどろかせたいと思いました。そのためにとても練習して、Eさんの思っている以上のものにしてみたいです。(後略)
B児	(前略) たくさん教えていただいたものすごく上手になりました。Eさんの「けやきの想い」への想いが伝わったと思います。まだ、直したり気を付けたりすることはたくさんあると思います。本番でページェントに来た人に私たちの想いが伝わればいいなと思っています。けやき通りに、私たちのキレイな歌声をひびかせたいと思います。本番に向けてこれからもがんばりたいです。

⑥ 光のページェント点灯式での活動

光のページェント点灯式では、児童全員がお世話になった地域の人々への感謝の気持ちをもって活動することができた。表9のとおり、A児の「大変なこともたくさんあったけど、みんなであきらめないで最後までがんばったから成功した…」やB児の「私たちはその何か月かをめちゃくちゃがんばった…」から光のページェント点灯式での活動まで学習意欲が持続し、地域活性化のために粘り強く、自らの学習を調整しながら取り組んできたことが分かる。学習過程に応じて地域の人々と「出会う・調べる・提案する・作り上げる」活動が、抽出児童の学習意欲の変容を促し、進んで学びを深めるための有効な手立てとなったと言える。

表9 光のページェント点灯式での活動後の抽出児童の振り返りの記述

A児	(前略) ステージ発表や歌が終わった後のかんせいやはく手を受けて、これまで準備してきてよかったなと思いました。大変なこともたくさんあったけど、みんなであきらめないで最後までがんばったから成功したと思っています。(中略) けやき通りに対する気持ちが0から300くらいになりました。4月ががんばってきて本当によかったなと思いました。(後略)
B児	(前略) 私たちが何か月もかけてやってきたことが何時間で終わってしまって、少し悲しかったです。けど、私たちはその何か月をめちゃくちゃがんばったからその何時間を成功させることができたなと思いました。(中略) 私たちの活動が、けやき通りのため、私たちの未来のためになったなと思います。(後略)

(2) 「価値ある体験活動」と他の児童の学習意欲の変容

「出会う・調べる・提案する・作り上げる」活動の前後（6月下旬と11月下旬）で、質問紙調査を実施した。質問内容「地域のこと（自然・歴史・産業など）にふれたり、調べたりする学習は好きです。」について、4段階評価（①あてはまる・②ややあてはまる・③あまりあてはまらない・④あてはまらない）で回答した。なお、11月下旬の回答は新潟市立総合教育センターによる新潟市生活・学習意識調査の一部である。表10から、地域での探究的な学習への肯定的評価が11月下旬の調査で約8.4ポイント増加した。光のページェント点灯式（令和元年12月6日に実施）前にもかかわ

らず肯定的評価の割合が増加していることから、単に「点灯式をやってよかった。」という一過性の気持ちではなく、地域活性化という目標を実現するために児童が自ら課題意識をもって解決に努め、他者との協働を通して解決の方法を検討し社会に働きかける活動に楽しさややりがいを感じる児童が増えたことが分かる。「価値ある体験活動」は多くの児童にとっても学習意欲の変容を促し、進んで学びを深めることに有効な手立てになったと言える。

表10 「地域のこと（自然・歴史・産業など）にふれたり、調べたりする学習は好きです。」の回答（n=48）

調査時期	①「あてはまる」の人数	②「ややあてはまる」の人数	③「あまりあてはまらない」の人数	④「あてはまらない」の人数	①+② 肯定的評価の割合
6月下旬	18	16	11	3	70.8%
11月下旬	24	14	8	2	79.2%

6 成果と課題

(1) 成果

- ① 「価値ある体験活動」は、児童の学習意欲の変容を促し、進んで学びを深める手立てとして有効であることが明らかになった。学習過程に応じて、「出会う・調べる・提案する・作り上げる」活動を設定することで、児童は粘り強く自らの学習を調整して調べ、提案するとともに、地域の人と自分の想いが重なり、活動が自分事となった。学習意欲は単なる興味・関心だけの一様なものではない。興味・好奇心、有能感・効力感、価値志向性、自己実現から成る重層性がある。そして、いきなり自己実現を図る学習意欲の具現はできないことから、前者が後者の前提となる階層性があると言える。総合学習における児童と地域の人々との関わりでは、期待する効果を明確にした上で、学習意欲の階層に応じた手立てを適切に行う必要があると言える。
- ② 「価値ある体験活動」を補強する手立てがあることが明らかになった。「少人数グループ」・「相手の仕事場」で活動することで、「出会う・調べる」活動では、児童は地域で活躍する人の想いや魅力をより深く感じる事ができた。「提案する」活動では、児童は実行委員会に参加し、必要感をもって活動案を練り直すことができた。「作り上げる」活動では、これまでの学習意欲をもとに地域で活躍する人の専門領域に踏み込んで活動し、児童は課題解決に向けて主体的・協働的に取り組むことができた。「少人数グループ」・「相手の仕事場」での活動は、児童と地域の人々との心理的距離を縮め、自分事として活動に取り組むために有効な手立てだと言える。

(2) 課題

課題は、本研究の成果を他の学年の総合学習にも応用することである。総合学習では、地域や学校、児童の実態に応じて教育活動を適切に実施することが重要である。令和2年度にはGIGAスクール構想が始まり、一人一台の端末が整備された。オンライン会議システムなどを活用すれば、「価値ある体験活動」はさらに広がりを見せるだろう。

以上の成果と課題をもとに総合学習における児童が進んで学びを深める手立てについて追試を重ねていく。

【引用文献】

- 1) 文部科学省「小学校学習指導要領 解説 総合的な学習の時間編」, 2017年, pp.152-153
- 2) 松澤徹「学習意欲の質的転換と『価値を志向する学び』の成立を図る授業構想」, 学校教育研究19(0), 2004年, pp.148-160
- 3) 古川康成「児童の主体性を育む新たな『ふるさと学習』の提案 -地域交流を活動の軸に据えた「若栃物語」の実践から-」, 上越教育大学教育実践研究 第22集, 2012年, pp.315-320
- 4) 文部科学省 国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校編）総合」, 2020年, p.11
- 5) 文部科学省 国立教育政策研究所「学習評価の在り方ハンドブック」（小・中学校編）, 2019年, pp.8-9
- 6) 鈴木知徳「コミュニティ・スクールによる学校支援活動」八百坂修編『副校長・教頭の多忙にならない仕事術』教育開発研究所, 2017年, pp.110-111
- 7) 田坂亮・和多治・高見沢実「小学校の総合的な学習の時間に組み込まれた『まちづくり教育』に関する研究～横浜市の小学校を対象とした調査を通して～」都市計画論文集 No.38-3, 2003年, pp.277-282